



Kaoru Soehata/アフロ

セーリング男子470級に出場した、日本の岡田奎樹選手(左)、外園潤平選手(右)のペア。メダルレースで6位に入り、総合成績では7位入賞を果たした

セーリング女子470級に出場した、日本の吉田愛選手(左)、吉岡美帆選手(右)のペア。メダルレースでは8位、総合成績で7位入賞となった



# PLAYBACK TOKYO 2020

神奈川県内で開催されたセーリングや野球・ソフトボール、サッカー及び自転車競技ロードレースの4競技をはじめ、会場周辺の様子や、県ゆかりの選手たちの活躍、聖火リレーのセレモニー、シティドレッシングに、県民参加型のイベント、事前キャンプ風景など東京2020大会の様々なシーンを写真とともに振り返る

# 江の島沖の熱戦

Heated Races Off Enoshima

風や潮の流れを読んで、有利な風をとらえる。  
セーリング競技に出場した日本の選手たちは  
長年慣れ親しんできた江の島沖の海面で  
持てる力をすべて出し切った

無観客で開催されたセーリング競技。各国のスタッフらが自国のメダルレース出場選手たちに声援を送った



USA TODAY Sports/ロイター/アフロ



ロイター/アフロ



ロイター/アフロ



ロイター/アフロ



2 Kaoru Soehata/アフロ

3



ロイター/アフロ

4



- 8
- ①混合フォイリングナクラ17級の飯東潮吹選手(右)と畑山絵里選手(左)のペア
  - ②女子RS:X級に出場した須長由季選手
  - ③2016年からペアを組む男子49er級の高橋稜選手(左)と小泉維吹選手(右)
  - ④オリンピックは3大会連続出場の女子レーザーラジアル級の土居愛実選手
  - ⑤男子フィン級の瀬川和正選手
  - ⑥女子49erFX級の山崎アンナ選手(左)と高野芹奈選手(右)のペア
  - ⑦4大会連続の出場となった男子RS:X級の冨澤慎選手
  - ⑧男子レーザー級の南里研二選手

**PLAYBACK  
TOKYO 2020**

東京2020大会のセーリング競技が開催された江の島の全景



- ① 遙か天空に富士山を望む、江の島沖の470級
- ② 江の島弁天橋の欄干には東京2020大会の装飾が施された
- ③ 参加国の艇と江の島シーキャンドル(展望灯台)



## 江の島景観

Sceneries of Enoshima

江の島は、2度のオリンピックが開催されたセーリングの聖地。レースを通じて世界中に江の島の魅力を発信した



2020年1月に江の島弁天橋に設置されたモニュメント。セーリングの帆をモチーフにした碑は目を引く



④セーリング会場となった江の島ヨットハーバー。ディンギーヤードには、参加国チームの艇が並ぶ ⑤「オリンピック セーリング村」としてセーリング競技の選手や関係者たちが滞在した「大磯プリンスホテル」 ⑥ヨットハーバー内に造られた地上3階建ての「江の島セーリングセンター」。大会終了後はセーリング競技大会の運営施設として利用される

4



5



6

## PLAYBACK TOKYO 2020

ライター / アフロ



オリンピックのセーリング競技は全10種目。大会期間中は、様々な国旗を掲げた帆が湘南の海に彩りを添えた



## 野球・ソフトボール ともに金メダルの快挙

Stunning Gold Medals in both Baseball and Softball

横浜スタジアムでは、野球・ソフトボールの決勝を開催。  
野球は正式競技としては初の金メダル、ソフトボールは  
北京2008大会以来の開催で2大会連続の金メダルとなった

アメリカとの決勝戦を制し、稲葉篤紀監督を胴上げする日本代表“侍ジャパン”。完封勝利は、継投と好守備が光った



西村尚己/アフロスポーツ



西村尚己/アフロスポーツ



西村尚己/アフロスポーツ

①近藤健介選手(横浜高等学校卒業)。3試合に出場し、韓国戦では7番レフトでスタメン出場した ②2試合に登板し、無失点の好投を見せた山崎康晃選手(県内プロ野球チーム所属) ③吉田正尚選手(青山学院大学卒業)。決勝の日本対アメリカ戦の8回、1-0で迎えた第4打席で追加点につながるヒットを打ち、金メダル獲得に貢献した

# BASEBALL

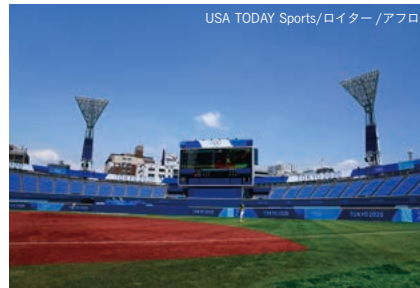
# SOFTBALL

## PLAYBACK TOKYO 2020



長田洋平/アフロスポーツ

キャプテンとしてチームを引っ張った山田恵里選手(藤沢市出身)。  
カナダ戦では、サヨナラヒットを放ち、決勝戦への切符をつかんだ



USA TODAY Sports/ロイター/アフロ

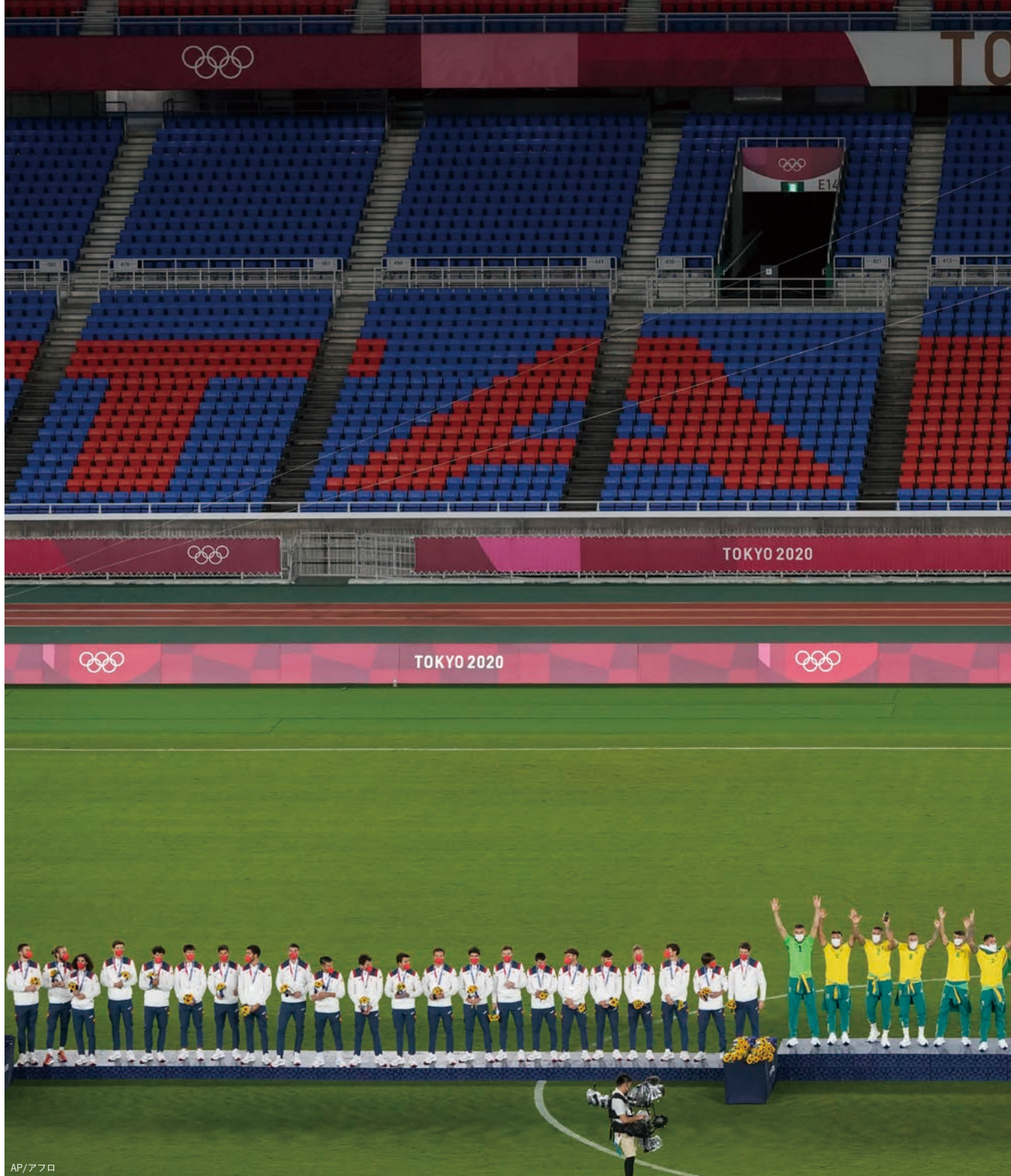
野球、ソフトボールの両種目で会場となった横浜スタジアム。コロナ禍により、異例の無観客での開催となった

決勝は13年前に金メダルを獲得した北京2008大会と同じアメリカ戦。エース・上野由岐子選手をはじめ、チームが一丸となって勝ち取った金メダルだった

青木純二/アフロスポーツ





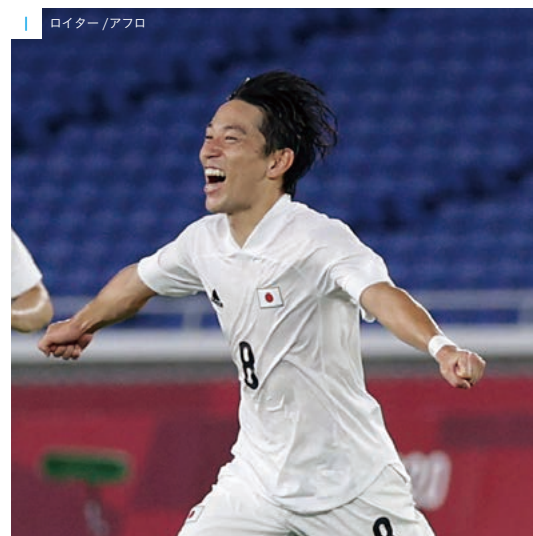


AP/アフロ

## 世界3大会の 決勝の地

Venue for Three of the World's Greatest Competitions

横浜国際総合競技場では、サッカー男子・女子の決勝が行われた。  
サッカー W杯決勝、ラグビー W杯決勝に続き、  
オリンピック競技の決勝が行われた会場として  
世界唯一の存在となった



ロイター/アフロ



TOKYO 2020



YOKOHAMA



TOKYO 2020



サッカー男子決勝は  
ブラジル対スペイン。  
延長戦にまで突入す  
る熱戦に、無観客と  
はいえ世界中から多  
くの注目が集まった

ロイター/アフロ 2

□決勝ラウンド進出を懸けたフランス戦で3点目を挙げた三好康児選手(川崎市出身) ②田中碧選手(川崎市出身)。全試合先発出場でボランチの役目を全うした ③サッカー女子決勝(スウェーデン対カナダ)は、前日に会場がオリンピックスタジアムから変更され、横浜で開催されることとなった



PA Images/アフロ

3



## PLAYBACK TOKYO 2020



相模川に架かる小倉橋(相模原市)を通過し、緩やかな傾斜が続く上り坂付近を走行する男子選手たち



相模原市内を走行する女子選手たち



男子ロードレースは、武蔵野の森公園(東京都)を出発、相模原市を通過し、山北町内にある三国峠(写真)を越えて、富士スピードウェイ(静岡県)までを駆け抜けた



高低差の激しいコースを戦い抜いた男子ロードレースのメダリストたち



相模原市内の小倉橋西側道路擁壁に掲げられた巨大な自転車競技ロードレースピクトグラムの横断幕

**PLAYBACK  
TOKYO 2020**

# 街を駆けた 白熱のロードレース

Exciting Road Race through the City

東京都、神奈川県、山梨県及び静岡県の  
4都県にまたがるコースを走行した自転車競技のロードレース。  
県内では相模原市、山北町を選手たちが駆け抜けた



# ATHLETES WITH CONNECTION

## 神奈川県ゆかりの 選手たちの活躍

Athletes with Connections to Kanagawa

県内出身や、練習拠点があるなど、神奈川県にゆかりの深い選手たちの中からメダルを獲得した選手を中心に、東京2020大会での活躍を振り返る



競泳男子200mバタフライで銀メダルを獲得した本多灯選手(横浜市出身・在住)。最後のターンでは4番手だったが、終盤の追い上げで順位を上げた

村上茉愛選手(横浜市在住)。2大会連続出場。団体、個人総合ともに5位。種目別ゆかでは、日本女子で57年ぶりの銅メダルを手にした



# TH S

新競技となるサーフィンでは、都筑有夢路選手(藤沢市出身・在住)が銅メダルを獲得。台風が接近する中、前日までに比べて波が高くうねるハードなコンディションでの試合だった



ロイター/アフロ



UPI/アフロ

柔道男子60kg級では、リオ2016大会で銅メダルの高藤直寿選手(東海大学卒業)が見事金メダルに輝く。東京2020大会の日本勢金メダル第1号となり、注目を集めた

寺内健選手(手前)とペアを組んだ坂井丞選手(相模原市出身・在住)。男子シンクロナイズドダイビング3m飛板飛込で5位入賞を果たした。2大会連続出場



杉本哲大/アフロ



森田直樹/アフロスポーツ

全6試合に出場し、準々決勝ではスリーポイントシュートを7本決める大活躍を見せた宮澤夕貴選手(神奈川県出身)。決勝では惜しくもアメリカに75-90で敗れたが、史上初の銀メダルを獲得

**PLAYBACK  
TOKYO 2020**

# PLAYBACK TOKYO 2020



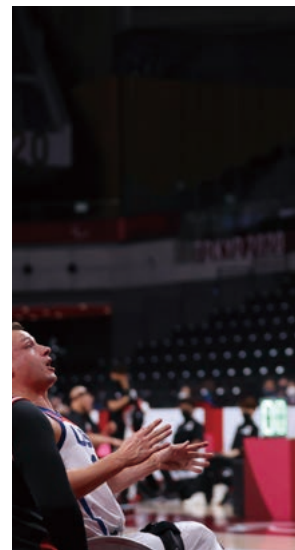
SportsPressJP/アフロ

成田真由美選手(川崎市出身・在住)。1996年のアトランタ大会から4大会連続出場し、合計20個のメダルを獲得している。東京2020パラリンピックで通算6回目の出場、女子50m背泳ぎ(S5)で6位入賞を果たした



松尾/アフロスポーツ

東京2020パラリンピックで3つのメダル(銀2、銅1)を獲得した富田宇宙選手(右・日本体育大学大学院在学)。男子100mバタフライ(S11)で、金メダル獲得の木村敬一選手(左)と抱き合い、喜びを分かち合う



ロイター/アフロ

パラリンピック男子水泳陣最年少の日向楓選手(横浜市出身・在住)。男子50mバタフライ(S5)で7位入賞



西村尚巳/アフロスポーツ

パラリンピック男子水泳陣最年少の日向楓選手(横浜市出身・在住)。男子50mバタフライ(S5)で7位入賞

東京2020パラリンピックのトライアスロンで、銅メダルを獲得した米岡聡選手(右・清川村出身)。ガイドの椿浩平選手(左)とともにスイムからバイクへと進む

Joel Marklund/IOC/OIS/アフロ



車いすバスケットボール男子は、王者アメリカとも互角に戦い、初の銀メダル。鳥海連志選手(神奈川県在住)は華麗なプレーでチームに貢献

長田洋平/アフロスポーツ



ゴールボール女子は3位決定戦で勝利し、銅メダル獲得。欠端瑛子選手(横浜市出身・在住)は、最終戦で自慢の力強い回転投げを決めた



YUTAKA/アフロスポーツ

東京2020パラリンピック卓球の女子シングルス(C11)で銅メダルを獲得した伊藤楨紀選手(鎌倉市出身・在住)。卓球で日本の選手がメダルを獲得したのはシドニー2000大会以来5大会ぶり

長田洋平/アフロスポーツ



車いすバスケットボールの古澤拓也選手(神奈川県出身・在住)。決勝戦ではアメリカと互角に戦い、初の銀メダルに輝く



# TORCH RE

## 聖火リレー

Torch Relay

オリンピック聖火リレーの公道走行は中止となったが、セレブレーション会場での点火セレモニーを実施した。

パラリンピック聖火フェスティバルでは、県内全市町村と県で生み出された火を一つに集め、「ともに生きる社会かながわの火」として東京へと送り出した

①聖火リレー 1 日目(6月28日)。神奈川県スタートランナーは、1984年のロサンゼルス大会体操競技で金メダルを獲得した具志堅幸司さん  
②ふじさわ観光親善大使でタレントのつるの剛士さん ③茅ヶ崎市出身の一輪車選手・佐藤彩香さん



④平塚市を走行予定だったランナーの皆さんで記念撮影 ⑤聖火リレー 2 日目(6月29日)。1980年のモスクワ大会女子体操競技代表(日本は不参加)で、小学校教諭の津田桂さん  
⑥ダンス&ヴォーカルグループDA PUMPのメンバー KENZOさん ⑦聖火リレー 3 日目(6月30日)。横浜市(マリンタワー前バス停～横浜赤レンガ倉庫)を走行予定だったランナーの皆さん



# LAY



⑧県内ランナー最高齢、現在もボランティア活動に励む五島シズさん ⑨横浜で生まれ育ち、(公財)横浜市スポーツ協会会長などを務める山口宏さん(左)と、(公財)日本補助犬協会理事の青木保潔さん(右) ⑩パラスポーツの魅力や楽しさを伝えることも使命だと話す正木楓さん(左)と、県の観光親善大使を務めるバレエダンサーの上野水香さん(右) ⑪左からパラ卓球日本代表の辻村琢光さん、認知症看護認定看護師の三浦洋平さん、タレントの出川哲朗さん、俳優の草笛光子さん、多文化共生の分野でボランティアとして活動する藤井文さん ⑫横浜赤レンガ倉庫(赤レンガパーク)で開催された、「NTT Presents 東京2020オリンピック聖火リレーセレブレーション」



## PLAYBACK TOKYO 2020



⑬県内全市町村と県で生み出された火。これらの火を一つに集め、「ともに生きる社会かながわの火」として東京へ出立した ⑭出立者の二條実穂さん ⑮集火者の5人がステージに設置された集火台に火を灯した ⑯県代表のパラリンピック聖火ランナー小石昌矢さん

# 事前キャンプ 受入れ

Pre-games Training Camps

# TRAI

各国の事前キャンプ誘致を積極的に行ってきた神奈川県。県立相模湖漕艇場で練習を重ねたカナダボートチームは、東京2020大会で金メダルを獲得するなど好成績を残した



①県立スポーツセンターで練習を行ったポルトガルのパラリンピックチーム。公開練習を通してパラリンピックの認知に努めた ②県立相模湖漕艇場で練習を行うカナダのオリンピック・ボートチーム ③平塚市総合公園で練習を行うリトアニアのオリンピック・近代五種選手 ④星槎大学箱根キャンパスで練習を行うブータンのパラリンピック・アーチェリー選手



# PRE-GAMES NING CAMPS



- 5 ⑤県立宮ヶ瀬湖カヌー場で練習を行うブラジルのオリンピック・カヌーチーム  
⑥県立スポーツセンターで練習を行うエルサルバドルのオリンピック・ボクシング選手 ⑦県立スポーツセンターで練習を行うエジプトのオリンピック・フェンシングチーム

**PLAYBACK  
TOKYO 2020**





①藤沢市内で開催した1年前イベント。黒岩知事(左)と、鈴木藤沢市長(右) ②県庁舎にもシティドレッシングが施された ③500日前イベントの様子(場所・藤沢市秩父宮記念体育館)。地域の皆さんが集まって、「500」の人文字を作った ④鮮やかな装飾が施された江ノ島電鉄の車両 ⑤ラッピングされた湘南モノレールの車両

## 機運醸成

Building Momentum

数年間にわたり、オリンピック・パラリンピックの機運を高めるイベントを多数実施。  
会場周辺を中心に大会を迎える装飾を施した

# BUILDING MOMENTUM



6

# PLAYBACK TOKYO 2020



7

⑥セーリングの海上体験会。実際にヨットを操船し、セーリングの魅力を知ってもらうためのイベントを継続的に開催  
 ⑦県内の小学生たちによる「フラワーレーンプロジェクト」。種から育てたアサガオを並べて、会場を訪れる選手たちを出迎えた  
 ⑧オリンピックカラーにライトアップされて、幻想的に浮かび上がる県庁本庁舎



8

# HOLDING THE GAMES IN THE MIDDLE

## コロナ禍での 大会開催

Holding the Games in the Middle of COVID-19

新型コロナウイルス感染症の影響により、  
史上初となる1年延期、無観客での開催となった。  
スムーズな運営のためのガイドライン等を受け、  
徹底した感染症対策を図り、  
安全・安心な大会の開催に努めた



①②③④⑤県内の各事前キャンプ地では、こまめな消毒の実施、マスクの着用、フィジカルディスタンスの確保、アクリルボードの設置、定期的なPCR検査など、徹底した感染症対策が行われた

# AMES OF COVID-19

6



AP/アフロ

## PLAYBACK TOKYO 2020

7



©Tokyo2020

[6][7][8][9]一部の会場を除いて、無観客での開催となった東京2020大会だが、選手団、関係者、報道陣などに向けての感染症対策が徹底して行われた。会場施設内や、その周辺では、ボランティアスタッフによる定期的な消毒や、マスク着用を呼び掛けるアナウンスがされ、安全・安心な大会運営が進められた

8



長田洋平/アフロスポーツ

9



ロイター/アフロ